



令和4年度 すさき野外博物館

しんじょう

2022. 8. 31
すさき・かわうそクラブ会報
—No.31—
発行：すさき・かわうそクラブ事務局

ホタルとカエルのタベ

6月4日（土）

新莊の坂ノ川地区で、ホタルとカエルの観察を行いました。始めに新莊公民館にて、講師の谷地森さんよりホタルとカエルの生態について説明をしていただきました。

ホタル

- ・種類によって光り方や色が違う
- ・ホタルが生きていくためには、暗いこと・卵を産むためのコケが生えていること・幼虫が食べれるカワニナがいること・サナギになるための泥があること・木陰があることが必要である

カエル

- ・全てのカエルには毒がある（触ったら手をよく洗うこと）
- ・この辺りに生息するカエルの写真とその鳴き声の紹介

説明が終わると坂の川へ移動し、ホタルが見られる場所を確認しながら暗くなるのを待ちました。

カエルの鳴き声はあちこちから聞こえていました。が、一斉に鳴いていたので、何種類いるのか聞き分けが難しかったです。

暗くなってくるとホタルも少しずつ見られ始めました。光が見えるたびに、大人も子どもも楽しく観察ができました。ホタルは観察する場所によって種類が違っていったため、光り方の違いも観察することができました。

参加者からは「たくさんのホタルが見られて楽しかった」「今度は家の周りでも観察してみたい」という声をいただきました。



フィールドサインを探そう！

8月6日（土）

桑田山にて、山道を歩き動物の痕跡（フィールドサイン）を探しました。

フィールドサインは、その場所にどんな動物がいるのかを把握するための手がかりとなります。主には足跡やフン、食痕（食べたあと）がありますが、動物によってその形は様々で、講師の葦田さんより実物や写真を見ながら見分け方を教えていただきました。



今回みつけたフィールドサイン

- ・シカの食痕（前歯が下にしかないため噛み千切った痕）
- ・ウサギの食痕（前歯が上下にあるためナイフで切ったような痕）
- ・タヌキの溜めフン（同じ場所に何度もする・仲間とのコミュニケーションにもなる）

今回は事前に自動撮影カメラを仕掛けており、撮影された映像も確認しました。タヌキ・イノシシ・アナグマ・ハクビシン・サルなど多くの動物の姿を見ることができました。



↑イノシシ



↑サル



↑カメラ

フィールドサインは一目ではわかりにくいですが慣れるとみつかることができますようになります。参加者からもたびたび発見報告の声が上がっていました。

カメラ映像でも須崎の山に住む多くの動物の姿を見ることができ、自分の家の裏にも仕掛けたいとカメラに興味を持たれる参加者もいました。